

読書活動の推進

第4次鹿児島県子ども読書活動推進計画では・・・

県では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国の第4次基本計画及び第3次県子ども読書活動推進計画による取組の成果と課題を踏まえ、第4次県子ども読書活動推進計画を策定しました。

第4次推進計画では、読書習慣の形成に向けて、次の2つのポイントをあげています。

- ①発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成する。
- ②友人同士で行う活動を通じ、読書への関心を高める。

「1日20分読書」運動～心に残る1冊の本との出会い～

「1日20分読書」運動とは、全ての子どもが1日に少なくとも20分は読書に親しみましようという運動です。この運動を通じて、「心に残る1冊の本」と出会えるように取り組み、読書活動を推進していきます。

また、高校生期では不読率が高まることから、この時期の読書活動の推進が大きな課題となっています。高校生期は友人等同世代の者から受ける影響が大きい傾向にあることから、子ども同士で本を紹介するような取組を充実させていきます。このような活動は、今後、高校生期のみでなく、全ての子どもを対象に取り組んでほしいと思います。

さて、現在、本地区では各小・中学校や公民館等を中心に、読み聞かせサークルによる読み聞かせ活動や乳児へのブックスタート事業、ビブリオバトル大会等、様々な読書活動推進への取組がなされています。今後も様々な取組がなされ、更に読書活動が活発になることを期待します。



▲読み聞かせ会の様子(いちき串木野市)

プログラミング教育の準備は進んでいますか？

平成29年3月に公示された新学習指導要領が小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から完全実施となります。今後社会はより情報化が進むことが予想され、学習の基盤となる資質能力として言語能力と同様の扱いとして情報活用能力が位置付けられました。その観点から総則の中で小学校においては、文字入力など基本的な操作を習得したり、新たにプログラミングの思考を育成したりすることが示されたところです。プログラミングの思考とは、自分が意図する一連の活動を実現するためにどのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのかといったことを論理的に考えていく力です。学習指導要領には、算数や理科、総合的な学習の時間においてプログラミングを行う場面が例示されています。



【移動講座(日吉小学校)】

各学校においては、プログラミング教育のねらいや授業イメージを確認したり、教師自らがプログラミングを体験したりすることで、来年度からの必修化に備えて欲しいと思います。



【総合教育センターリーフレット】

日置地区フレッシュ研修

他校種参観…7月9日(火)、串木野養護学校
宿泊研修…7月23日(火)～26日(金)、南薩少年自然の家
県立吹上高等学校

日置地区内小・中・高等学校9人の新規採用教員を対象に他校種参観を実施しました。また、宿泊研修は特別支援学校の新規採用教員を加えた11人で南薩地区と合同で開催しました。

参加者は、他校種への理解を深めるとともに、様々なふれ合い活動や体験活動等を通して、教師としての資質・能力の向上を図ることができました。



【他校種参観の様子】



【宿泊研修の様子】

職場の労働安全衛生(10月1日～7日)

職員一人一人が意識をもって、過重労働にならないよう時間外・休日労働の削減や年休取得を促進したり、ストレスチェック制度を活用したりすることで、健康な職場づくりをめざしましょう。

- スローガン：健康作りは 人づくり みんなでつくる 健康職場
- 趣旨：過重労働や仕事に対する強い不安による不健康、労働力の高齢化による病気治療と仕事の両立への対応などを背景として、職場の環境改善のため、労働衛生意識の高揚を図るとともに、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進を図る。
- 本週間で主な取組事項
 - 1 衛生管理者又は衛生推進者による職場巡視
 - 2 スローガン等の掲示
 - 3 労働衛生の意識高揚のための行事等の実施



「今週の一問」の積極的な活用

今年度から管内の児童生徒の学力向上をめざした取組として今週の一問を配信しています。この問題は、過去3年間の鹿児島学習定着度調査や全国学力・学習状況調査結果で課題の見られた問題、かごしま学力向上支援Webシステムで公開されている問題で構成しています。

各学校においては、どのような形で取り組まれているのでしょうか。家庭学習に使用したり、授業の定着度調査として活用したりしていると思います。児童生徒にとって未経験の問題を解くということは、ハードルが高いものです。良問を経験することで、ぜひ問いに対する考え方を定着させて欲しいと思います。

1 右の図のような装置を使って、水中ではたらく圧力について調べた。後の問いに答えなさい。ただし、100gの物体にはたらく重力の大きさを1Nとする。また、実験で用いた細い糸の体積や質量は無視できるものとする。

実験 Ⅰ 空気中で、ある物体Xをばねばかりでつるしたところ、3.7Nを示した。
Ⅱ 右図のように水中で物体Xをつるしたところ、ばねばかりは、2.9Nを示した。

(1) 水に物体を沈めたときの水圧を正しく表しているものはどれか。次のア～エから1つを選び、記号で答えよ。

ア 水圧 水圧 水圧 水圧
イ 水圧 水圧 水圧 水圧
ウ 水圧 水圧 水圧 水圧
エ 水圧 水圧 水圧 水圧

(2) 次の文の (a) (b) にあてはまるものを選び、次のア～エから1つを選び、記号で答えよ。

ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び組織・教育・食料・環境学習大会

8月23日(金)、日置市日吉老人福祉センターにて、管内の女性会員等205名の参加の中、学習大会が開かれました。前半の「保健・福祉」の部では、「心と体のメンテナンス」と題し、県民総合保健センターの山元部長が講演されました。後半の「組織・教育・食料・環境」の部でのシンポジウムでは、日吉地域女性連によるブックスタート事業や子育てサポート事業等子育て支援の状況や、また、羽島地区婦人部による「乳幼児を持つ母親教室」の取組の状況等について、報告や提言がなされました。

その後のディスカッションでは、フロアから活発に意見が出され、地域の教育力や地域ぐるみによる子育ての重要性を再確認できました。



▲ 開会行事の様子

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

県では、学校・家庭・地域社会のより一層の連携と協力の下に、県民一人一人が鹿児島の教育について考える気運を高め、教育の充実と発展を図ろうと、11月1～7日を地域が育む「かごしまの教育」県民週間としています。この週間では、各校が工夫し、保護者・地域住民への学校開放や自由参観等開かれた学校づくりに取り組んでいます。

右の絵画は、今年度の県民週間ポスター原画の部で最優秀賞(1名)を受賞した諏訪之瀬島小学校4年の濱田千明さんの作品です。

画題「みんなで育てた花たちも地いきのみなさん おでむかえ」
十島村立諏訪之瀬島小学校4年 濱田 千明さん



オープンサポート教科フォーラム

第1号でもお知らせしましたが、これまでに2回、コアティーチャーネットワークプロジェクト部会を実施しました。31人の委員の先生方は

諸学力調査において本地区で課題の見られた単元に対して、どのような授業を実践していけばよいか試行し、モデル指導案を作成したところです。その成果をオープンサポート教科フォーラムとして公開しますので、ぜひ、御出席ください。

- 算数・数学会 9月25日(水)伊集院北中学校
 - 国語部会 11月5日(火)上市来中学校
 - 外国語活動・外国語部会 11月27日(水)伊集院中学校
- (詳細は、公文で御確認ください。)



涼風

南北六百キロの暮らし

鹿児島教育事務所 総務課長 伊瀬知 義弘

本年度の定期人事異動で、離島から三年ぶりに地元へ帰って来たが、改めて生活の便利さに気付くことが多い。買物を例に取れば、少々残業しても時間をさほど気にせずとも店が開いているし、店の選択肢も多く、離島に比べて思惑通りの生活を送りやすい環境である。医療機関にしても、自分で納得した病院等を選択することができる。また、県内各地への高速道路整備が進み、交通網がより良いものになるうとしている。インフラ整備が進んでいるところ、人口は集中し、より豊かな(個人の価値観は、様々であるが)生活の恩恵を受けている。少なくとも、都市部と地続きであれば、住環境がさほど良くなることも何とかなる場合もある。

では、離島での三年間はどうか。正直に言えば、生活根拠地が県本土であったことから、我慢を強いられる場面が多かった。仕事柄、離島によっても、住みよいたと、そうでないところ、差がある事情を目の当たりにした。しかし、開発されずに現存している雄大な自然の風景をはじめ、人と人との距離が近いことから感じる温もりなど、都市部では味わえない経験ができたことは、貴重な思い出として大切にしたい。

子どもたちの教育に、格差があつてはならないことだが、土地についての素晴らしさや足りないうところなど、様々な事情を背景に成り立っていることを分かってほしいし、広い見識を持って将来を担う大人へと成長してほしいとも思う。

因みに、今夏は、南国のような映え渡る真っ青な空を見上げることはなかった……。

